



国際理解のための開発教育セミナー

(財)香川県国際交流協会

はじめに

昨年、平成一五年度に(財)自治体国際化協会の助成をいただいて「国際理解のための開発教育セミナー」を実施することができ、また、今回その経緯について紹介する機会を得たのは幸甚である。

現代社会、特に先進国と呼ばれる国家間では情報、金融、経済等多くの接点で相互に関係を持ち、それらが依存し、また、影響を与え合っている。また近年、わが国と開発途上国との間でも同様の関係が一層幅広く強く形成されつつあるように思う。

事業の企画計画にあたって

昨年度、本事業の企画計画にあたって最も重点を置いたのは、これら現在の私たちを取り巻く状況、つまり国際的な「つながり」の認識であった。国際化や国際理解という言葉の定義はさまざまと思うが、他国に興味を持ち、海外に旅行し、外国の人

と友人になるといった国際交流という側面、特定の国や地域、または自分の身近に住む外国から来た人を援助し支援するという国際協力や外国人支援という側面のほかに、先に述べたこの「つながり」について多くの人が興味を持ち事実を認識すること、国際化を測る一つの指針になるのではないかと思つたのである。

事業実施にあたって

次に、事業実施時の開発教育・国際理解教育における本県の状況について述べたい。当協会での実績はJICAの助成をいただいて過去二年間に各一回一日のみのセミナーを実施していた。その時の講師は開発教育協会DEAR事務局長の湯本浩之氏で、対象は特に限定しなかった。この二回の講座である程度のニーズの把握はできていた。その他、国際理解教育の普及を目的とした団体が少数ではあるが存在し、教育委員会等の教育機関も部会または各学校で

日程・講師・内容

総合学習の時間に独自の活動を行っていたが、これらのネットワークはまだ未整備だった。

本事業の日程・講師・内容は別表のとおりである。対象は、当初は教育関係者と国際関係団体の会員としたが、結果的には国際理解教育や開発教育に興味を持っている個人の方も

個人の方も受講してきて、協会の利用客層の新規開拓にもつながった。日程も二月、三月という時期にもかかわらず、四日間で開催



講座内容

開催日時	開催場所	参加人数	講師	内容
第1回 16年2月15日 13:30~16:30	アイバル香川 (香川国際交流会館) 会議室	34名	えひめグローバル ネットワーク代表 竹内よし子氏	・基調講演 「なぜ今国際理解教育が必要なのか」 ・ワークショップ 「ファシリテーター入門講座①」 「アイスブレイキング」 「フレインストーミング」
第2回 16年2月29日 13:30~16:30	アイバル香川 (香川国際交流会館) 会議室	21名	特定非営利活動法人 開発教育協会 大阪事務所 次長 荒川共生氏	・各種アクティビティの紹介 ・ワークショップ 「フーリーシンキング ～つながりを見つけよう～」 「熱帯雨林に関するワークショップ」
第3回 16年3月7日 13:30~16:30	アイバル香川 (香川国際交流会館) 会議室	22名	社団法人 青年海外協力協会中国支部 堀田直揮氏	・各種アクティビティの紹介 ・ワークショップ 「仲間探し」 「フォトランゲージ」 「いるものいらないもの(無人島ゲーム)」
第4回 16年3月14日 13:30~16:30	アイバル香川 (香川国際交流会館) 会議室	15名	特定非営利活動法人 開発教育協会 事務局長 湯本浩之氏	・総括 「貿易ゲーム」 「世界がもし100人の村だったら」 「ファシリテーター入門講座②」 「先進県の事例紹介」

九二名という多くの人が受講してくれた。講師は今後の展開を考えて四国内のNPO関係者とJICA関係者各一名と、前述のDEAR関係者二名にお願いした。内容については、基本的知識の確認とできるだけ多くのアクティビティの紹介を心がけた。講

義やワークショップのほか、関係図書等の教材を購入し紹介・貸出をするとともに、各アクティビティをビデオ撮影して後で利用できるようにした。

事業実施後の感想

受講者の感想はおおむね好評だった。座学ではなく、受講者が参加しなければ始まらないワークショップという形態は、実践が伴うこの分野では非常に有効だと思われる。ただ、他事業の実施後でも思うことであるが、受講者の満足度や理解度等の効果測定が、受講した数やアンケートによるしかなかく、分析が難しかった。

一受講者としての感想であるが、この種の講座に参加する場合は、自分のあり方やかわり方、得たい結果を明確にしておくことが大事であり、個人が受講した内容を単なる知識として持つのでなく、自らの活動につなげていくことが重要であろう。また、開発教育のノウハウは地球規模の諸問題に個人がどうアクセスしていけばよいの



かという問題にも有効であると思う。

今後の課題

今回の事業の最終的な目標は、開発教育・国際理解教育の知識を持っているだけではなく、自分たちでグループやネットワークをつくり、いろいろな手法を組み合わせてワークショップを開催し体験を増やすことによつて、国際的な感覚を身に付けた人を増やすことである。実施後のアンケートにも「実践の場の提供を」という声が多く聞かれた。今回の受講者を含めた関係機関とのネットワークづくりとともに、実践や支援をしていくことが当協会の今後の課題と考えている。

最後に

事業実施とともに関係団体の支援機能へのニーズが高まっている県協会にとつて、開発教育・国際理解教育のノウハウは今後の重要なリソースになってくると思われる。これまでの国際交流・協力がそれと組み合わせられることによつて、より一層の国際化の普及啓発が期待される。また、今後の日本のために、このような事業が教育機関と協働で実施されることを切に願うものである。最後になったが、本事業の実施にあたりお世話になった関係機関や団体の方々にこの場を借りてお礼を申し上げたい。